

第10回 高専技術教育研究発表会 in 木更津 参加報告

技術第3班 矢作 友弘

1. はじめに

平成31年3月4日から5日に、木更津高専が主催する「第10回 高専技術教育研究発表会 in 木更津」に参加した。本発表会には、全国28高専から65名が参加し、口頭発表30件とポスター発表14件が行われた。

2. 開催趣旨

本会は、高専の技術職員が、日常業務で携わっている技術教育研究支援活動や研究活動等についての発表会および情報交換会を実施し、それらを通して技術職員の資質向上と技術教育の拡充を目的として開催されている。

発表の内容については、1.技術教育研究支援に関わる発表（実験・実習、学生指導）、2.科学研究費等補助金採択による研究発表、3.公開講座、出前授業など地域貢献に関わる発表、4.技術職員セミナーなど技術職員の啓発に関わる内容となっている。

3. 日程

<1日目；3月4日(月)>

- 13：00～ 開会式・記念撮影
- 13：40～ 口頭発表
- 16：00～ ポスター発表
- 17：10～ 情報交換会

<2日目；3月5日(火)>

- 9：00～ 口頭発表
- 11：40～ 閉会式

4. 研修会に参加して

開会式にて、高専機構の安藤理事よりご挨拶を頂戴した。高専は実践的な技術習得ができる教育機関であり、機構ではモンゴル、タイ、ベトナムを重点支援国として高専教育制度の展開を推進している。世界では、国連サミットで

持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられ、研究機関には、研究成果を社会にいかにも実装していくかが現在の課題となっている。高専には、研究成果の社会実装のために、高専間の技術ネットワーク形成が必要で、これによって各々の高専が持つ技術を相互に活用できるようになる。この発表会に参加している技術職員の皆様には、発表会を通して活発に情報交換しネットワーク形成をして頂きたい旨、激励を頂いた。

発表会では、第10回の記念ということで、木更津高専の嶋野技術長より、本会の運営状況を総括した内容の発表があった。本会への参加人数は、発足時から増加し、最近では60名を超えている状況との報告があった。本会が全国の技術職員が一堂に会して技術発表・情報交換できる会として定着していると感じた。この他の発表では、実験実習支援業務に関する発表として、アクティブラーニング形式の実験実習を取り入れ、その研究成果を物理学会の Jr.セッションで発表させた取組み事例の発表や、地元駅周辺のイルミネーションを手がけた地域貢献事業など、参加者各位の特色ある取組みが発表された。また、国際的な技術支援として、海外の教員を対象とした機械工作実習事例の発表や、グローバル教育に対応すべく、技術職員各位が英語学習に自主的に学習する取り組んだ事例の発表があった。今回、私自身は、公開講座に関わる発表として、「ガラスおよびプラスチック基板を用いた銀鏡反応による鏡づくり」と題して発表を行った。公開講座の実施に関する発表件数は多く、他校と運営状況に関して有意義な情報交換をすることが出来た。

最後に、本会に参加して、精力的に活躍されている多くの技術職員の方と交流することが出来ました。本会で得た知見を今後の業務に役立てていきたいと思っております。